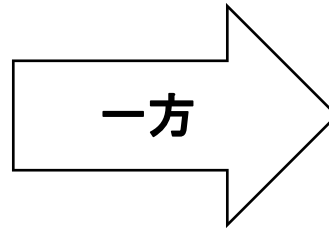
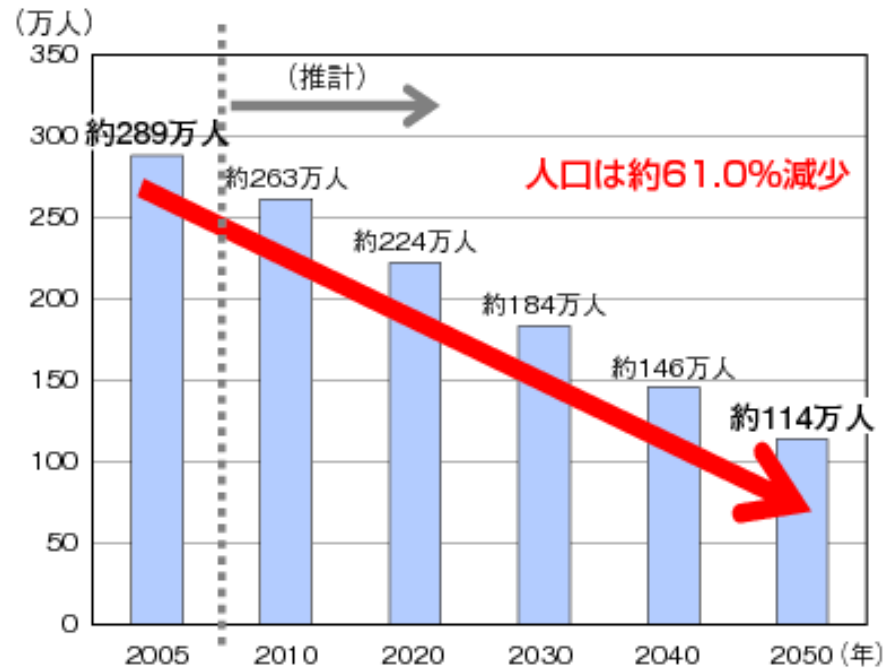


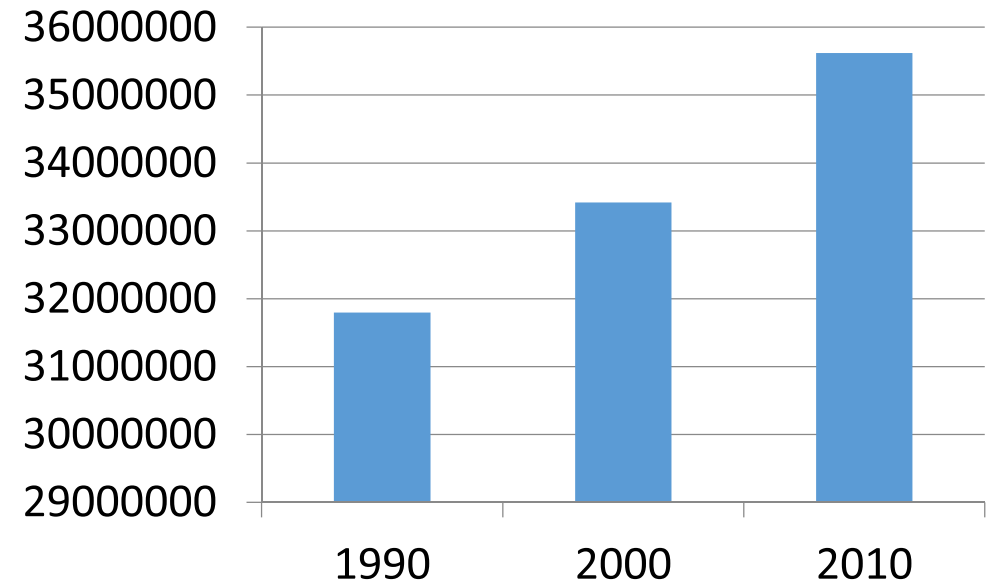
伝統を、ずっと。新しいを、もつと。

地方の過疎化

現代日本の課題として挙げられるものの一つに、地域の過疎化がある。

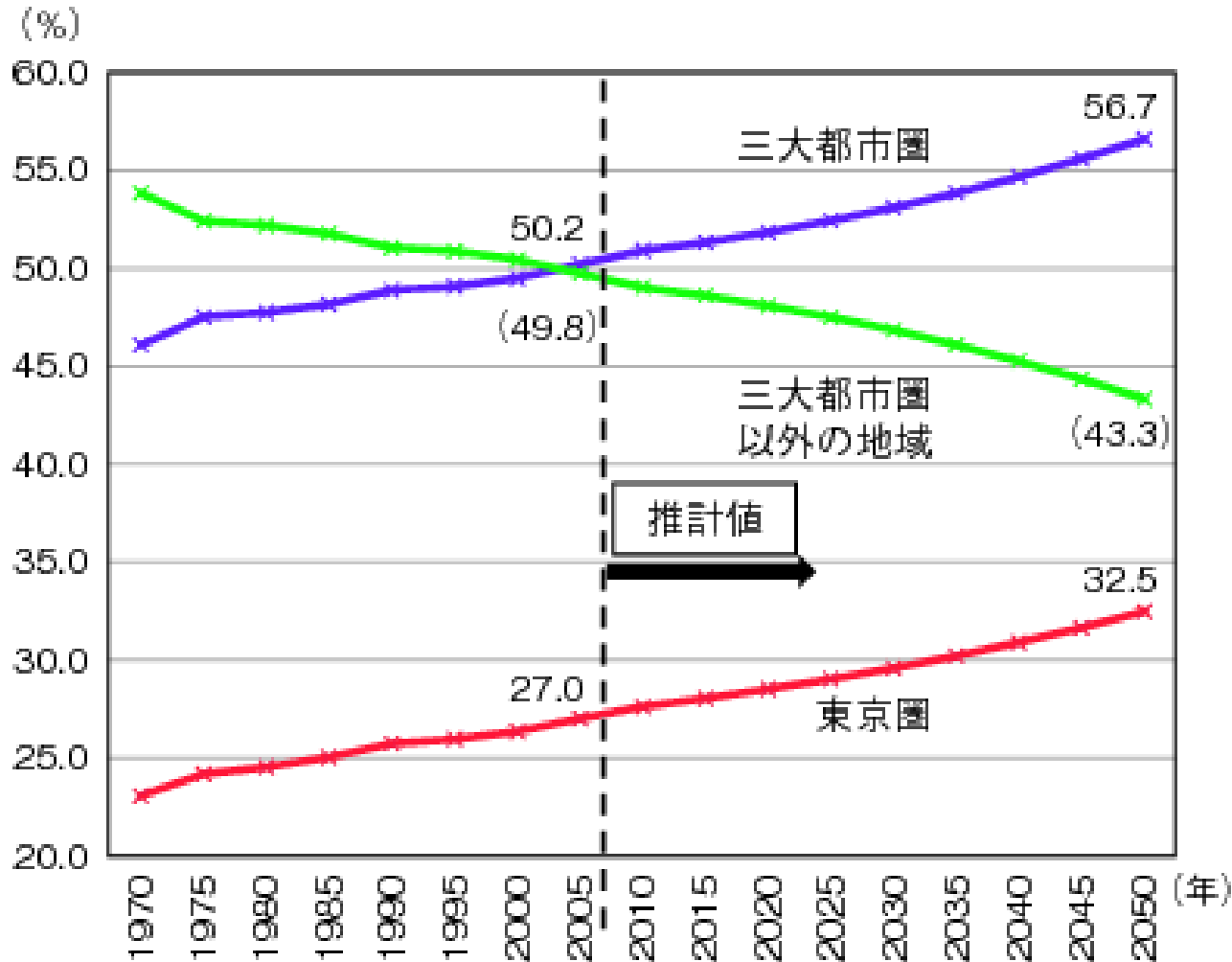


首都圏人口



上図より、地方では現在に至るまで過疎化が進んでおり、今後も進行が予想されている。

この図から分かるように、首都圏の人口は増加の一方である。



また1970年から、人口の推移を比較したものが左図である。この図より、地方から都市へ人口が流入していることが考えられる。特に東京都では2050年にかけて5.5ポイントの上昇が予想されている。

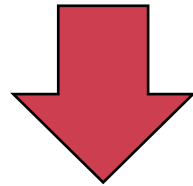
→都市に企業が集中している



地方の過疎化

理想の未来

次の世代を担う若者が各地域の特性を活かして活性化させることにより、日本全体の生産性を高める。



人が地域にも移動し、半永久的に続く国土となる

提案

私達は提示されたテーマの“人口減少下においても持続可能な国土管理”よりギャップイヤーの活用を提案する。

【ギャップイヤー】

ギャップイヤーとは、主に大学の入学試験に合格した学生が高校卒業後に一定の休学期間を得てから入学する制度である。英国で始まった。海外では、ボランティア活動や留学などをする例が多い。

日本ではまだ導入があまり進んでいない。



ギャップイヤーの活用

海外では主に1年間が主流だが、日本の学生が大学に合格してから入学するまでの期間は約1か月である。その期間で若い学生を地域の活性化に用いる。

【内容】

大学側がギャップイヤーのプログラムをいくつか提示し、学生はそこから選択し活動する。大学は地方企業と連携しプログラムを作成。

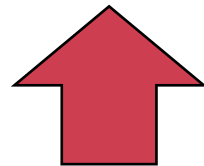
内容としては主に、過疎化が進んでいる地方に学生が赴くことで、その土地の伝統・文化・工業・農業等を体験し、交流を図る。

利点

学生・・・地方との交流により、知識教育だけでなく道德教育にも繋がる。

大学・・・人間力の高い学生を獲得できる。

地方・・・若者が参加することで対流が起こり、活性化する。



また、企業にとってもこのような人材が入社することは有益だと考えられる。そのため、このことを視野に入れた採用を推進する。

→学生は積極的にギャップイヤーを活用するようになる。

参考文献

- <http://www.gapyearplatform.org/>
- http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudoseisaku_tk3_000043.html